

## 編集後記

### ■編集委員

#### 委員長

藤田 郁代

#### 副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

玉井 ふみ

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

今年は災害が多く、7月に西日本を襲った豪雨は住民の方々の日々の暮らしを大きく破壊してしまいました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、できるだけ早い時期での復旧を祈念いたします。

西日本では、厳しい残暑の中での復旧作業がまだ続いており、日本言語聴覚士協会も大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT; Japan Disaster Rehabilitation Association Team)のメンバーとして復旧を支援しています。JRATは、2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に結成された組織で、日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本義肢装具士協会、日本介護支援専門員協会など13団体が加盟し、大規模災害時の組織的な支援に備えて全国規模の体制づくりを進めています。人々の生活機能の維持・向上に専門的に対応するリハビリテーション専門職は、被災された方々の健康の維持、被災された障害のある方や高齢者の活動性の維持・向上に専門的な知識や技能を活用することができると思われます。当協議会は、災害時に多職種が連携して適切な対応がとれるよう、都道府県単位で多職種災害リハビリテーション・コーディネーター育成のための研修会も開催しています。

さて、今号は2018年6月22日～23日に富山市で開催された第19回日本言語聴覚学会(会長:中野徹先生)の講演抄録が掲載されています。ここに掲載された多くの貴重な研究が、“根拠に基づく言語聴覚療法”の進展を支える基盤になるものと思います。学会の講演抄録のほか、今号には短報2編と調査報告1編が掲載されています。いずれも摂食嚥下障害に関連する研究で、嚥下障害の回復に関与する要因、嚥下の評価方法、言語聴覚士による口腔ケアの実態を探求し、興味深い結果を得ていますのでご一読ください。

(藤田郁代)

## 言語聴覚研究(第15巻 第3号)2018年9月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2018, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)